

見どころ案内

うらら池西岸の通路は工事のため通行止めです。ロックガーデンへは花の進化園側からお回りください。

キクモモ (バラ科)

キクモモはバラ科サクラ属の落葉小高木で、花卉が長く、菊に似ていることに由来します。江戸時代に中国北部より渡来し、観賞用に改良されたもので、濃い紅色の八重の花をつけています。

マイヅルソウ、ミヤコワスレなど

春の花が次々と咲いています。暖かいので色々な花が咲いており、花盛りとなっています。

サボテンの花

色々なサボテンが咲き始めています。夕方には閉じてしまうものもありますので、お見逃しのないように御覧ください。

エビネ展

～4月26日(展示温室)
日本原産の野生ランとして人気の高いエビネを展示しています。この後は春の洋ラン展、セッコク・長生蘭展となります。

シャクナゲ (ツツジ科)

色々なシャクナゲが咲き始めています。池沿いの通路が通れないので、花の進化園から入る通路から御覧ください。

祝！大温室

リニューアルオープン
日本一のパオバブ、植物を間近で見られる空中デッキ、巨大コンニャクの並木など館内を一新しました。

フジ (マメ科)

つる性の落葉木本で、紫色の花をつけます。咲き始めています。日本庭園のは白花種ですが、こちらは今が盛りとなっています。

ポピー (ケシ科)

雛罌粟(ひなげし)、虞美人草(ぐびじんそう)とも呼ばれ、様々な色があります入口の大花壇でも咲いています。

ドイツスズラン

(キジカクシ科)

日本産のスズランに比べて大型で丈夫です。歯と花が同じ高さに咲き、香が強いのが特徴です。

ボタン (ボタン科)

原産地は中国西北部で、花の王と言われています。咲き始めたものから順次展示予定です。

おし花美術作品展

～5月6日(展示資料館)
四季折々の植物を素材として、季節ごとの情景を描いたおし花作品を展示します。1階ロビーでは、植物公園42年のあゆみ展も開催中です。

